

## 山本瀧之助生誕 150 年関連事業

### 「瀧之助ゆかりの地を巡るフィールドワーク」

#### ◇目的

沼隈町出身で、「青年の父」・「青年団の生みの親」と呼ばれた山本瀧之助は、今年「生誕 150 年」を迎えた。沼隈町内には「瀧之助ふれあいロード」などゆかりの地がたくさんある。現地を巡りながら、改めて山本瀧之助の功績を知り、郷土の先人として親しみを持ってもらう。

◇コース めまぐま交流館(集合・出発)→ 鞆渡橋→ 枝広邸跡→ 旧千年小学校→ 寄の宮(亀山八幡神社)→ 南泉坊→ 山本瀧之助生家→ 旭観音→ めまぐま交流館(山本瀧之助記念室)

#### ◇各ポイントでの主な説明



【鞆渡橋】昔は板橋だった。1948年の架け替えでコンクリート橋になり、現在の橋は1971年に架け替えられたもの。当時、尾道から鞆へ通じる道で、常石の人が鞆に歩いて行く時は、必ずこの橋を渡ったことから「鞆渡橋」と呼ばれるようになった。瀧之助は常石尋常小学校に勤務した17年間、この橋を渡り続けた。

【枝広邸跡】幕末から3代に渡って開業した、旧枝広医院跡。心身の調子が悪くなる度に枝広医院で診察を受けている。著書『田舎青年』は枝広医院のお世話になりながら書き上げることができた。



【千年小学校】瀧之助が勤めていた頃は、「第14尋常小学校」。瀧之助はこの小学校に入学し、卒業すると中学校進学を希望したが、経済的理由から断念せざるをえなかった。その後、草深村戸長役場の雇いを経て、1889年に臨時教員として草深尋常小学校に勤務し、教育者としての第一歩を踏み出した。ここでの勤めは1年半。その後松永尋常小学校へ勤務し、翌年に常石尋常小学校へ戻った。

### 【寄の宮（亀山八幡神社）】

天曆年中（947年～957年）頃に創建されたと伝わっている。祭りの日には山車（だんじり）が町内を巡り、寄の宮（亀山八幡宮）まで引き上げられる。この山はかつては島だった。



【南泉坊】1414年（応永21年）創建。瀧之助が子どもの頃によく遊んだお寺で、日記の中にも何度も出てきます。毎日のように立ち寄り、遊んだり説教を聴いたりしている。ここでの学びがその後の活動に大きく影響している。1931年（昭和6年）10月27日に瀧之助の葬儀もここで執り行われた。



### 【山本瀧之助生家】

母屋は約150年以上前に建てられた一般的な農家。左側の建物は日記の中にも登場し、瀧之助が建てたもので、1階が瀧之助の書斎だった。ここで執筆活動や青年団の指導について思いを巡らしていた。記念室の一角には、この部屋が再現されている。



【旭観音】山本家近くの観音堂で、瀧之助の精神的な支えとなった。『田舎青年』の執筆にあたっては、この観音堂で書き始めの誓いを立て、執筆が行き詰まった時には「アードーゾ ネガイ カナエタマエ」と祈り、完成の折にはお礼に参っている。しかしつい最近、この観音堂は瀧之助の頃は南泉坊の敷地内にあり、その後移築されたことがわかった。



### 【山本瀧之助記念室】

旧沼隈町時代の1997年6月に「沼隈町生涯学習センター」として開館し、福山市と合併した2005年以後は施設名が「ぬまくま交流館」に変更された。館内に、「瀧之助記念室」がある。

